

分科会5

働く発達障害の声と声

大島みどり (NPO 法人 NECST ユースキャリアセンターフラッグ)
平野
柳沢すみれ
岡田奈央子 (NPO 法人 NECST ビルド)

企画概要

「発達凸凹のある当事者が企業で働くこととは？」

働く前の思い、日常生活でのエピソード、働くうえでのやりがいや工夫など、フラッグの卒業生から様々な声を聞き、その後は会場の皆さんとも対話しました。

当日の内容

①卒業生による体験談

一般就労をして現在働いている当事者3名の体験談をご紹介します。

なぜ働こうと思ったのか、現在の仕事を選んだ理由や仕事内容や職場環境、上司との関係、特性を活かしてうまくいったことや失敗談まで多岐にわたるエピソードをそれぞれより紹介しました。

今までのキャリア、年齢や特性など異なる3名の話には、会場から共感の声や「こんな時はどうしている？」というようなご質問を頂きました。

②グループセッション

休憩をはさみ、関心のあるテーマごとにわかれて意見交換を行いました。

テーマは“発達凸凹あるある”をイメージしながら、以下の6つを設定しました。

「人との距離感」「働く時の工夫」「休養／趣味／仕事のバランス」「当事者周辺の人達」

「2次障害の予防と対策」「フリートーク」

運営側で考えた際には、いずれかのテーマに偏ってしまうのではないかという懸念もあったのですが、会場の皆様のご協力もあって、どのグループも同じくらい的人数で意見交換をすることができました。どのグループも盛り上がり、あっというまに終了時間。

最後に、約15グループの皆様からグループワークであがった声を会場に届けて頂きました。それぞれの発表に「うんうん」と頷いていらっしゃった方や「わかるー」と仰りながら笑顔で聴いておられた方もいらっしや、ご参加頂いた方々のリアルな声が会場に届いた時間になりました。